

ネットワーク仙台 No.68

コロナに負けずに活動されている会員団体の令和3年度の活動の様子をご紹介します！

特定非営利活動法人まちづくりスポット仙台／仙台市泉区



▶令和3年度新規加入団体

特定非営利活動法人
まちづくり
スポット仙台

特定非営利活動法人まちづくりスポット仙台の取り組みを紹介します

まちづくりスポット仙台とは

特定非営利活動法人まちづくりスポット仙台は、郊外住宅地で市民主体のまちづくりを支援する NPO 法人です。複合商業施設・ブランチ仙台の中で交流スペースや主催・共催イベントを運営し、近隣地域（桜ヶ丘、長命ヶ丘、加茂、川平、中山など）をメインにコミュニティ同士の交流、市民活動・町内会サポートなどの事業へ取り組んでいます。

VISION：選ばれるUPタウンを地域のみんなでつくる！

近隣にお住まいの方々と夢を共有する『まちづくりの標語』として、「山の手(アップタウン)」以外にも「人口がUPする」「魅力がUPする」「気持ちがUPする」といった意味を込めています。



<交流スペースの貸し出しも行っています>

まちスポ仙台が運営している「交流スペース」は、非営利活動の場合は1,800円／3時間～、企業・法人の場合は7,500円／3時間～貸し出しを承っております。地域活性を支援する NPO 法人が運営しているスペースのため、企業の CSR 活動や、地域の皆さまとともに価値創造を行う CSV 活動にも最適で、社会貢献活動に前向きな法人のブランディングにもぴったりです。

また、ご相談によってはまちスポ仙台と具体的な連携を進めている近隣のまちづくり団体や高校・大学などの教育機関、公的機関とおつなぎすることも可能です。

(→詳細は TEL かメールにてお問い合わせください)





<賛助会員募集>

私たちの活動を支援してくださる会員様を随時募集しています。

個人：3,000円（1口）

法人：10,000円（1口）

賛助会員登録申込書にご記入の上、
まちスポ仙台事務局までご提出ください。

まちスポ仙台ではこんなことに取り組んでいます

地域の皆さんやブランチ仙台と一緒に取り組んでいる事業の一部をご紹介します。

ママもパパも、のびのび子育てしたい！未就学児の親世代を応援

ママカフェ

2020年10月から、普段の子育て・家事等がんばるママたちがホッとできるコミュニティを築いていくきっかけのひとつとして“ママカフェ”を毎月開催しています。

2021年度は“ママカフェ”と一緒に盛り上げていく近隣にお住まいのボランティアの方や連携する団体が徐々に集まり、地域と一体となってつくり上げていく動きが見え始めました。子育て世代のチャレンジマルシェ“ママ・マーケット”の開催や“ママカフェ”の取り組みがメディアに取り上げられるなど、盛り上がりを見せました。

<メディア掲載・放送情報>

2022年2月2日/KHB東日本放送/チャージ！2部

2022年3月～1か月間放送/CAT-V/みんなのテレビ

2021年10月号/中広（発行）/とみいず！



肯定的にオーガニックを楽しむ 新しい環境配慮のかたち

オーガニックマーケット

ランチオーガニックマーケットは、2020年度から毎月第1土曜日に定期催しているマルシェイベントです。

複合商業施設・ランチ仙台の屋外広場と屋内交流スペースを会場に、ランチ仙台とまちづくりスポット仙台が運営を続けています。

屋外広場では化学肥料を使わないオーガニック野菜など環境に配慮した商品を販売するマーケットを、屋内では干し柿、ぬか床づくりなどの体験型ワークショップやゲスト講師を呼んだ生物多様性を学べる講座を併催しているのが大きな特徴です。特に春～夏シーズンは広場を横断する小川で水遊びをする子連れの姿で賑わい、屋内の講座には自然愛護に関心のあるシニア層の来場が多く見られます。「環境に配慮する」というコンセプトは徹底しながらも、「これを使ってはダメ」という否定的な入口ではなく、誰もが肯定的にオーガニックを楽しむライフスタイルを提案できる催事を目指しています。



<お問い合わせ>

特定非営利活動法人まちづくりスポット仙台

TEL: 022-343-5404 MAIL: info@machispo-sendai.com

宮城県仙台市泉区長命ヶ丘2丁目21-1

ランチ仙台 WEST 1F

みやぎボイス連絡協議会／仙台市青葉区

▶令和3年度新規加入団体

▶令和3年度地域づくり団体全国協議会助成事業活用団体

復興からまちづくりへ、
専門家らが連携し地域の力となるために

みやぎボイス連絡協議会は、東日本大震災から3年後の2014年より震災復興シンポジウム「みやぎボイス」を開催している任意団体です。

復旧復興に際し、目の前の問題解決に重きを置く現場に対して、未来につながる課題解決型復興、更にはまちづくりに向けた多様な主体による協働・共創のプラットフォーム構築の大切さを痛感した建築・まちづくり専門家の有志により立ち上がりました。

みやぎボイスでは、被災者、ボランティア、中間支援関係者、福祉関連支援者、土木技術者や建築家のような専門家、学識経験者、行政職員など、復興に取り組んでいる様々な立場の方々が一同に介し、お互いの意見をぶつけ合う場となるシンポジウムとして、毎年回を重ねるごとに成長しています。



■登壇者の発言をオーディエンスが取り囲み聴き入ります（みやぎボイス 2018）

これまでの取り組み

みやぎボイスは、毎年テーマを決めて開催しています。テーマは企画打合せの中で、その年毎に課題だと思われる内容を抽出し設定してきました。また、会場で集められた「声」は各回ごとに報告書として書籍化し、広く社会に発信しています。

2021年はコロナ禍対応としてリモート併用にて「東日本大震災から10+1年目を迎えて、私たちは何を語ることができるのか」として「地元で復興検証できる仕組み」と「原発災害と社会的分断」を新たなテーマに加え、多分野にわたる意見交換を行いました。



■みやぎボイス 2020, 2021 はコロナ禍に対応したリモート併用にて開催しました

みやぎボイス型プラットフォームを 全国各地に

去る12月には、構成団体である日本建築家協会東北支部宮城地域会主催の「アーキテクツウィーク」内において、みやぎボイスのスピノフ企画「アフターボイス」を開催し、完成した報告書のお披露目を行うとともに今後の課題等を議論する機会を設けました。



■みやぎボイス 2021 スピノフ企画「アフターボイス」せんだいメディアテークに於いて

また、「復興検証」の在り様を探り多角的な視座に立つために、各地の様々な専門家に対して「東北で行うべき検証とは何か」を主題にヒアリングを行うなど、任意のメンバーにて不定期な勉強会も開催しています。

津波の被害を受けた沿岸部では、目新しい堤防・港・道路・造成地と、住宅・生産施設が姿を現し、内陸部では大震災があったと気づくことが難しいほどに復旧復興が進みました。一方、昨今は地震に限らず度重なる豪雨など甚大な災害が後を絶ちません。加えて阪神淡路大震災など過去の災害からの課題は今も続き、東南海地方の災害リスクが現実味を帯びて議論されています。

みやぎボイスを通じてこれらを議論することは、被災者と被災地にとっては「大震災からの再生」に、災害から復興に立ち向かっている地域にとっては「課題解決」に、将来に対しては「日々の備え・まちづくりに対する知見と示唆」が期待できます。またこのような『対話』を軸に据えたジャンルも立場も超えた議論の場は、あらゆる課題解決に向けた一助となるはずです。そして、地域やジャンルを超えた専門家らのネットワーク、プラットフォームが各地に展開され、それらがつながり連携することができれば、災害から立ち上がる時、同じ過ちを繰り返さないことが可能ではないかと考えています。

次回は、令和4年7月3日に10回目の開催を予定しており、現在も企画会議を行っているところです。



- 2013年「地域とずっといっしょに考える復興まちづくり」
- 2014年「復興住宅のこえ」
- 2015年「復興で橋渡しするもの」
- 2016年「これまでの復興とこれからの社会」
- 2017年「計画・制度とそこから零れ落ちるもの」
- 2018年「次の社会の在り方につなげる試み」
- 2019年「復興の終わりの始め方」
- 2020年「復興検証の検証を望む声」
- 2021年「東日本大震災から10+1年目を迎えて、私たちは何を語るができるのか」

■みやぎボイス報告書（2013-2021）は¥1,000/冊（税抜）でお譲り可能です。

<https://www.jia-tohoku.org/archives/702>

問合先：みやぎボイス連絡協議会事務局
（（公社）日本建築家協会東北支部宮城地域会内）

E-Mail：miyagi@jia-tohoku.org

吉岡宿にしぴりかの映画祭実行委員会／大和町

- ▶令和3年度地域づくり団体全国協議会助成事業活用団体
- ▶令和3年度仙台支部交流促進助成事業活用団体

「吉岡宿にしぴりかの映画祭」の願い

「見渡せば知らないことばかりのこの世界。まずはゆっくり近づいてみよう」

2016年から始まり6回目を本来の会場「吉岡宿」から、感染症の影響で「せんだいメディアテーク」に移して12月25日に開催しました「吉岡宿にしぴりかの映画祭」です。

先日の新聞に障害を持つ家族への監禁殺害記事がありました。同日紙面に同級生にありえないいじめを受け凍死した普通の女子中学生の記事が出ていました。何気なく日常を過ごしてしまう我々の身の回りに「ありえない苦しみ」がたくさん潜んでいます。それは昔からのことです。そして昔から多くの場合それらを、分からないこと、自分とは関係のない世界のこと等とやり過ごしていった歴史があると思います。



今回の映画祭で取り上げたドキュメンタリー映画も、遠い海外の出来事と言えるでしょう。しかし今回の3作品に共通するもうひとつの事実は、その遠い海外での出来事に深く関わった日本人が映像として切り取って出来上がったドキュメンタリーであるという事実です。少なくとも、関わってきた人たちにとっては「遠い海外の出来事」ではなかった。目の前の、手で触ってきた、言葉を交わし抱き合ってきた人たちの出来事でした。

映画祭では3作品のうち2作品において、その監督や共に現地で生きた人を、地域づくり団体全国協議会の助成によりゲストとしてお招きできました。遠い国かも知れませんが、確かに存在する国であり人々であり心から共感しうる現地の人々の心を証言してくれました。



上映作品の2本目「荒野に希望の灯をともし～医師・中村哲 現地活動35年の軌跡～」を制作した谷津賢二監督は、中村哲氏が唯一心を許したカメラマンでした。彼が記録した膨大なデータの一部を映画として見せていただき、生の話を聞かせていただきました。橋本康範氏はペシャワール会のワーカーとして共に働いた人で映画祭の地元、宮城県在住の方です。彼も献身的に今回の映画祭を支えてくれました。



上映作品3本目「カンタ！ティモール」の広田奈津子監督、ミュージシャンとして映画を支えた小向サダム氏は、二人の子供と共に名古屋から飛んできてくれました。忙しい中でも「伝えたい」「知ってほしい」という思いがあふれる家族でした。ゲストをお招きすることは出来なかった上映作品1本目は「オロ」。岩佐寿弥監督自身も映画の中でチベットの亡命少年オロと触れ合う優しいおじいさんとして登場していましたが、すでに故人となりました。配給元は監督の追悼上映の

ようなものだ、と喜んでいました。

1作品目はチベットへの迫害からインドに逃げ込んで生きる人々を少年の目から通して伝えてくれる作品。2作品目は悲しい殺害事件で世に衝撃を与えた中村哲氏の人柄を通して、アフガニスタンを伝える作品。折しも銃弾で何とかしようという世界情勢は中村哲氏とは全く逆さまな行為で、その対比を際立たせ、今も力強く継続しているペシャワール会の活動の意味を教えてくださいました。3作品目は多くの血を流しながら長く続いた東ティモール独立運動の深い傷の中、暴力ではなく平和を求める心を全編に流れる陽気で優しい歌が伝える、希望を感じさせてくれる作品。私たちは遠い人ではない。共に共感し合える人間なんだと心に響きます。



映画祭では、これまでも身体障害・精神障害・認知症など、忙しい日常の中では見過ごされ見捨てられやすい人々の生活を切り取ったドキュメンタリー作品を上映してきました。そして当事者などから話を聞き共に考えてきました。一つ一つが新鮮で「知らないことばかり」でした。その知らないことを監督たちは、身を持って心を削って映画作品として形作って伝えてくれます。本当はそこに共に生きるのが「知る」には良いのでしょうか。でも、それが叶わない私たちは少なくとも、知っていこうと努力したいと思います。「映画を見よう、そして語り合おう。」そして、私たちも、それぞれの日常の中で目の前のことに取り組む「心」を磨いていこう。そう思います。



映画祭は、その他に聴覚障害の方々とのつながりも深く、バリアフリー上映を目指し映画に字幕を自分達でつける取り組みもしています。また、ショートムービー制作を自分たちでも体験し「伝える」ということを自分たちのものにもしていこう、というワークショップもしています。コロナ対策の影響で前回は断念した「ショートムービー座談会」を、通常の会場とは違う環境でしたが今年は再開できました。ワークショップ参加者の思いの詰まった作品を見て意見を交わし合えたのは嬉しい時間でした。



吉岡宿にしぴりかの映画祭実行委員 小野田豊

団体HP : <http://sendai-keicho.sakura.ne.jp/wp/>

その他の活動紹介 粋々まちなかプロジェクト／仙台市太白区

古民家道中庵 de 楽しむ旧正月

令和4年2月18日から2月20日まで、古民家・道中庵（仙台市太白区大野田）において、仙台藩の伝統にこだわりながら旧正月を楽しむ会が、粋々まちなかプロジェクト主催で開催されました。

2月20日には、郷土史家の菅野正道さん（元仙台市博物館仙台市史編さん室長）の仙台藩における正月料理などのお話や松竹膳處の仙台雑煮を食しながら、箏と尺八の演奏を楽しむ会があり、事務局からも参加させていただきました。参加者は十分な間隔を空け、食事は黙食とするなど、コロナ感染症対策をしっかりと採っており、事前に申込みのあった20名程が参加しました。

郷土史家の菅野正道さんからは、スライドや古文書の資料により江戸時代初期の伊達政宗の正月膳や幕末の12代藩主慶邦の正月膳の話がありました。仙台のお雑煮といえば、出汁は焼きハゼが有名ですが、古文書などでは、ハゼを用いた例はほとんど確認できず、実は焼きハゼは明治時代以降に焼きハゼが商品化されてから、自前で出汁が調達しにくい都市や町場において広がったようです。正月料理といえば、サケやタラが重要で、正月にタラが少ないことを心配した伊達政宗の書状が残っています。

また、伝統の仙台門松（現代の3本の竹による門松とは異なっている）についてのお話もあり、今回は会期中の3日間に道中庵の入り口に復元し飾っており、参加者は興味深く見つめていました。

さらに、箏と尺八の演奏があり、箏は生田流宮城社大師範の橘寿好さん、尺八は琴古流の木村和信さん（ユニット「星空」）による「春の海」や「六段の調べ」等の演奏により参加者は大変、優雅な時間を過ごすことができました。

粋々まちなかプロジェクトでは、今回のイベント以外でも「古民家 道中庵 de うれし楽しひなまつり」等のイベントを実施されており、特にひなまつりに関しては今年で18年目となり、仙台・宮城の様々な魅力を発信されてきました。今後とも文化や歴史等の伝統とモダンの融合により、まちに彩りを添え、様々な交流や賑わいを創出していただけるよう期待しております。

団体HP : <http://imachinaka.com/>





菅野正道さん (郷土史家)



江戸時代の版画における仙台門松



箏と尺八による演奏 (箏：橘寿好さん，尺八：木村和信さん)

事務局からのお知らせ

▶会員登録情報の変更について

仙台支部にご登録されている会員の皆様に連絡が取れないことがあります。

住所、電話番号、メールアドレス等の内容に変更があった時は、所定の様式で変更の手続きが必要となりますのでご注意ください。

▶イベント情報募集について

仙台支部では、ネットワークせんだいの発行だけでなく、会員へ情報メールを送信しております。

お知らせしたいイベント情報がありましたら、ぜひ事務局までお寄せください！

編集後記

ネットワーク仙台の記事は、例年、事務局が会員団体を訪問し、インタビューをさせてもらい記事にしておりましたが、今回はコロナ禍ということもあり、記事原稿を団体様で作成してもらいました。お忙しい中、快く引き受けていただいた3団体様につきましては、大変ありがとうございました。

発行：みやぎ地域づくり団体協議会仙台支部事務局（宮城県仙台地方振興事務所地方振興部内）

〒981-8505 仙台市青葉区堤通雨宮町4番17号

TEL：022-275-9114 /E-mail：sdsinbk@pref.miyagi.lg.jp

支部ホームページ <http://www.pref.miyagi.jp/site/kouiki-sendai/tiikidukurisendai29-7.html>